

かつては、修学旅行速報というのがラジオで放送されていた時期があります。近年打ち切られたこともあって、本校では、ホームページを利用して、保護者や地域の皆様に、できるかぎり修学旅行のリアルな子どもたちの情報をお伝えしたいと考えました。

修学旅行画像は、北海道の現地から本校にリアルタイムで送信し、紀行文は早朝にファックスで送信したものを、本校のホームページで速報としてアップロードしたものです。

## 修学旅行の思い出（5月26日）

早朝、重い雲の立ち込める長岡をあとに、伊丹空港に。

心を弾ませて、飛行機に搭乗。

離陸とともに、わき起こる歓声。

機体が揺れるたびにわき起こる悲鳴。

到着地、千歳の空は私たちを待っていたかのように青空をのぞかせていた。

ガイドさん曰く、「千歳空港では、バスに乗車するまでに、大変な時間を費やす学校もある」と。

本校生徒は、本当にスムーズに千歳空港を出発し、昼食場所の箱根牧場へ。

待ち受けてくれていたのは、陽がさすほどの天候と数多の牛や馬たち。

いま、社会問題になっている口蹄疫予防のため、全身にクエン酸消毒をしてから牧場へ。

家畜を守るために必死の牧場の人たち。

そして、広々とした芝生の上で、思い思いに昼食を。

お腹のふくれた後は、広い芝の上で思う存分にボール遊びに興じる者。

デザートに牧場産のソフトクリームで舌を白くする者。

束の間のでっかい北海道の昼食休憩。

そして、一路、目的地富良野へ。

途中で立ち寄った二風谷アイヌ文化博物館では、アイヌの伝統家屋の前で各クラスの記念写真を撮る。

トマムあたりまで来ると一気に気温が下がり、さすがに北海道を実感。

日高・夕張の山並みの頂にはまだ真っ白な残雪が。

車窓外に広がる道沿いの森には、ピンクのえぞ山桜やこぶしの白い花が。

北海道はこれからが本格的な花の季節を迎えるとのこと。



ホテルに到着した夕暮れ時、富良野盆地は、それはもう肌を刺す寒さに。

部屋で暖をとり、バイキング料理に舌鼓を。

翌日の富良野・旭山動物園を楽しみにみんなゆっくり、ぐっすり就寝してくれるといいのですが……。

## 修学旅行の思い出（5月27日）

前日とはうってかわり、未明より雨のぱらつく富良野。

それでも北海道自然体験として企画されたラフティングを始める頃には、天気も味方に。

富良野市生涯学習センター体育館でドライスーツとライフジャケットを着用。

ラフティングスタート地点では、グループ毎にユーモアたっぷりのインストラクターさんより念入りにラフティングジャケットの手ほどきを。

ヘルメット姿も勇ましく、緊張を気合でごまかして全員、さあ出発！

雪解けで普段より水量の増す空知川。

渓谷の白波の立つ急流では、絶叫が山々に。

ゴールに到着する頃には、疲れのせいも、声も途切れ途切れに。

制服に着替えて、富良野をさらに北上。

丘の町、美瑛に入ると、一面に広がる幾何学模様の大畑が。

ビート（てんさい）の作付けも始まり、しばらくするとジャガイモの花が。そして、7月に入るとラベンダーが見ごろを迎えると。

ガイドさん曰く、

「咲いた花見て喜ぶならば、咲かせた根元の恩を知れ」

祖母から教わった大切な言葉とのこと。

運転手さん、添乗員さんの計らいで、ジェットコースターの道に、道草を。

まっすぐ、そして長く、勾配の急の坂道を四中のバス3台だけ。

美瑛の北面の丘では、学年全員で記念写真を。

そして、待ちに待った旭山動物園に。

晴れ男か晴れ女がいてくれるのか、動物園では、前日の牧場同様、陽ざしも。

思い思いに目的の動物たちのところへ。

人気のあざらし館では、止まってくれない被写体にイライラしながらカメラを向ける生徒も。



この日も、滞りなく予定が流れ、一路宿泊地札幌へ。

赤レンガ造りのしゃれたサッポロビール園では、名物ジンギスカン料理を。

着ぐるみのキャラクターも登場し、修学旅行気分も最高潮に。

ここでちょっと時間をとってしまい、30分遅れで出発。

車窓に2日目の宿舎が見えると、その豪華さに歓声が。

オートロックの部屋には若干の戸惑いを感じながらも、札幌の夜は贅沢に更けていきました。

